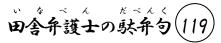




みのる法律事務所 弁護士 千田 實 〒021-0853

岩手県一関市字相去57番地5

TEL:0191-23-8960 FAX:0191-23-8950





### 



令和 4(2022)年7月1日 あおでらうきょのすて 青空浮世乃捨

安全保障にとって、戦争がないのが理想です。それが最高によいことです。 安全保障とは、外国からの侵略に対して防衛するために、安全を保障しよう とすることですが、侵略がないのが一番ありがたいのです。それが理想です。

ですが、現実はどうでしょうか。プーチンロシア軍がウクライナに侵攻し、 戦争となっています。因みに、「侵略」とは、他国に侵入して武力で領土を奪 うことです。「侵攻」とは、相手の領土に攻め入ることです。

現実は、理想には遠く離れています。理想と現実との間は大きな谷があります。

この谷に懸け橋を架けなければならないのです。現実を理想に近づけるためには、懸け橋がいるのです。

安全保障にとっては、理想と現実の間にある谷に架ける橋は、国連の安全保障理事会の筈です。

ですが、この安全保障理事会は、アメリカ、イギリス、フランス、ロシア、 中国の5常任理事国が持つ拒否権によって、全く機能していません。

国連は、世界平和のためにできたものです。国連の目的を果たすためには、安全保障理事会の抜本的な見直し、改定が急務です。

# 田舎弁護士の駄弁句 (120)

### 戦争を するくらいなら 国いらず 国より令 それが哲学



令和4(2022)年7月1日 あおざらうきょのすで 青空浮世乃指

プーチンのロシア軍がウクライナに侵攻し、ウクライナは国を、領土を守る ため闘っています。ウクライナ国民の国を、領土を守るために命を掛けて闘う 姿には頭が下がります。

ウクライナを守るために、ウクライナ国民を支援しようとしている多くの国 や、多くの人達の気持ちにも心底より共鳴します。 ウクライナを支援するため に武器を支援する諸国の行動も心情的には分かる気もします。

しかし、この世において最も大事なものは人の命です。人の命は、失えば二度と戻ってはきません。国のため、領土のためであっても人の命を犠牲にしてはならないのです。

「人命は全地球より重い」と看破した最高裁判所の考え方には心底より共鳴します。

世の中には、色々な考え方があり、人それぞれに哲学があると思います。哲学をその人の生き方へ対する考え方と捉えれば、私の哲学は、命は地球より重いということになります。

人の命を犠牲にして、守るべき国も領土も財産も、利権もないというのが私 の哲学です。私はそう信じて疑わないのです。

プーチンは、何故ウクライナに侵攻したのかの本当の理由は分かりませんが、 どんな理由があるにしても、国の武力を使って人の命を奪うことを認める理由 はありません。

民族の問題、領土の問題、歴史観の問題など、国と国との主張の違い、利害の対立、正義観の違いなどなど、考えや意見の違いはあったとしても、武力で他国に侵攻し、人の命を奪う国などあってはならないのです。そんなことなら国など要りません。



## コロナ禍とウクライナ侵攻と憲法9条

前号では、令和4(2022)年7月23日予定の一関9条の会の講演の演題は 『コロナ禍と憲法9条』とするつもりだと紹介しましたが、『コロナ禍とウク ライナ侵攻と憲法9条』に変えたいと考えています。

只今現在は、ロシア軍のウクライナ侵攻によって戦争となっています。この 事について話さない訳にはいかない状況になっています。

戦争に絶対反対の立場としては、この問題に関係して語りたい話が山程ありますが、今回は前記駄弁句に読みました国連の役割について語りたいと思います。

結論を先に言えば、世界の安全保障の為の役割を果たすべき国連の安全保障 理事会が機能していないため、安全保障の理想と現実との間には、大きな谷間 があると言うことになります。その谷間にどうやって橋を架けるべきかについ て語りたいのです。

そもそも戦争とは、「国と国とが武力を使って争うこと」ですから、極端な 言い方をすれば、国がなければ戦争にはならないということになります。

広辞苑は「世界連邦」という言葉を「世界の全ての国家を統合した世界連邦の成立を目指す運動、及びその国際的な非政府組織である」と解説しています。世界連邦は、国をなくし、世界全体を一つの国とすれば、戦争はなくなるのではないかという考え方で、それを目指す理想なのです。そうなればコロナなどの異人類との闘いは、全人類が一致団結して闘うことができ、理想的であることは間違いありません。

国というものがなくなれば、国と国とが武力を使って争うことはなくなります。世界連邦は戦争をなくすためには理想であることは間違いありません。しかし現実は、地球上に196の国があります。

そして、只今現在もプーチンのロシア軍がウクライナに侵攻し、アメリカ、イギリス、フランス等の国がウクライナに武器を提供し、戦争は激しくなっています。ロシア軍とウクライナ軍の戦争は長期化、拡大化、深刻化し続けています。

ロシア軍の若き兵士と、ウクライナに残って闘うウクライナの男性が毎日多く死んでいます。戦争が一日延びればそれだけ両軍の兵士が死んでいくのは間違いありません。

直接闘う両軍の兵士が死んでいるだけではなく、民間人も多数死んでいます。 女性も子供も死んでいるのです。こんなことは一日でも、一時間でも、一分で も早く止めなければならないのです。

ロシア軍がウクライナに侵攻する行為は断じて許されることではありません。プーチン大統領は気が狂っているとしか思えません。彼の罪は万死に値し、どのようにしても償うことはできないものです。

ウクライナの指導者や、ウクライナ国民のロシア軍の侵攻に対し、ウクライナの領土と国民を守る為に闘わなければならないという気持ちは良く分かります。これを支援しようという多くの国や、多くの人の気持ちもよくよく分かります。

ですが私は、ウクライナの指導者にも、国民にも戦争はさせたくありません。 プーチンの考えや行動に従うべきだと言うつもりもありませんが、ロシア軍の 侵攻に対し、武力で闘うのはすぐに止めて欲しいのです。

ロシア軍の侵攻に対し武力で闘うことをしなければ、ロシアの若い兵士も、ウクライナの男性も死ななくて済むのです。多くの民間人も、女性も子供も死ななくて済むのです。一つの命も戦争で死なせたくないのです。それでなくても新型コロナウイルスでは、令和 4 (2022) 年 7 月 1 日現在世界では 633 万 5,874 人もの人が亡くなっているのです。今、人類同士が殺し合いをしている時ではないのです。

どんな正義よりも、どんな名誉よりも命が大事なのです。最高裁判所は「一人の命は、全地球より重い」と言いました。その人にとってその命は全地球より重いと看破した最高裁判所は、見事に「人命の尊さ」という物事の真相を見破っていたのです。

命がなくなれば、地球も、宇宙も、空間も、時間もなくなってしまうのです。 全て命あってのことなのです。人の命を「全地球より重い」という表現は言い 得て妙です。

人命と人権に究極の価値があるとする日本国憲法の根本的な考え方、価値観に立てば、人の命より大事なものはないのです。国を守るとか、領土を守るとかも大事なことではありますが、一人の命は地球より重いのです。地球より重いのですから、国より、領土より重いことは当然です。

国と領土を守るためであっても、人を殺し合う戦争はやってはならないのです。太平洋戦争、第二次世界大戦では世界で6,000万人とも、8,000万人とも、日本だけでも300万人以上の命が奪われたのです。コロナでの死亡者数より、はるかに大きな死者が出たのです。

その反省の上に立って、日本国憲法は「戦争放棄」の 9 条の規定を世界に 先駆けて定めました。他の国もこの規定に続くことを期待していますが、75 年 経った今尚、世界中で戦争放棄を定めた憲法を持つ国は日本の他にはないよう です。残念で仕方ありません。

ですが第二次世界大戦後に戦争は回避しなければならないという気運は世界中に湧き上がり、国連ができました。国連憲章はその前文で「我ら連合国の人民は、我らの一生のうちに二度まで言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争の惨害から将来の世代を救い」と書き出しています。戦争のない世界を目指しているのです。しかし、この国連が理想通りの機能を果たしていないところに、現実は理想に近付くことはできないでいます。

今こそ、憲法9条と国連憲章が目指している理想と現実との間にある深い谷に、懸け橋を架けるためにはどうしたらよいかを考える時ではないでしょうか。

日本国憲法 9 条については、これまでも多く書いたり語ったりしましたが、これからも書いたり語ったりします。ここでは国連と安全保障理事会について語ってみたいのです。国連の安全保障理事会が機能していないので、ここを 是正させなければならないということを強調したいのです。

日本国憲法 9 条は 75 年間、日本という国と日本人は、戦争で一人の人も殺すことも、殺されることもなかったという見事な成果を上げました。日本国憲法 9 条の果たした役割は、これだけでも十分に証明されています。

これに比べ世界では、朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、アフガニスタン戦争など休む 暇もなく戦争が続き、ロシア軍とウクライナ軍とが戦争の真っ 行中にあるという状況です。日本国憲法 9 条と国連憲章の掲げる理想は同じなのですが、その成果には天と地ほどの差が出ています。何故でしょうか。

憲法 9 条は「戦争のない世界」という理想を現実にするため「戦争の放棄」 と「戦力の不保持」を掲げました。理想を実現するため、現実から理想に渡る 橋を架けました。戦後日本はその橋を渡り戦争のない理想の国となりました。

それに対し国連は、戦争放棄と武力不保持を掲げていないために、戦争のない世界への橋を持たない諸外国は戦争に巻き込まれています。その代表がアメリカです。アメリカは第二次世界大戦が終わった後も、前記のどの戦争にも関与しています。いつでも戦争に関わっています。

このようなアメリカの現実は「戦争のない世界」という理想に近付いているとはとても言えません。トランプ前大統領より、バイデン現大統領の方がいくらか穏やかで、プーチンのように気が狂ったようなことはしないだろうという気はしますが、ウクライナに武器支援をするところを見ると、理想には遠い気がします。

安全保障理事会の常任理事国であるアメリカ、イギリス、フランス、中国、ロシアの5ヶ国のうち、その一国であるロシアが一方的にウクライナに侵攻することは正気の沙汰ではありませんが、アメリカ、イギリス、フランスがウクライナに武器支援をするのもどういう考えなのかが分かりません。中国はロシ

アの行動を批判する様子もありません。国連の安全保障理事会の常任理事国の 5 ヶ国は安全保障をどのように考えているのでしょうか。

国連は、第一次、第二次世界大戦を反省し、戦争のない世界を目指すという 理想の元に作られた筈なのに、国連の現実は、その理想とは程遠い存在となっ ています。その最大の原因は、安全保障理事会が全くと言っていい程機能して いないからです。理由として、アメリカ、イギリス、フランス、中国、ロシア の5ヶ国が持っている拒否権に最大の原因があります。この5ヶ国のうち1ヶ 国でも反対すれば、国連の決議は成立しないという点です。

ロシア軍のウクライナ侵攻を、国連として止められないのは、ロシアが反対 すれば国連の決議は成立しないのですから当然の結果です。ロシアが、「ロシ アのウクライナ侵攻は国連憲章に反する行動であり止めるべきである」などと 言う筈はありません。常任理事国の一ヶ国が戦争行為に走ったら、国連として はこれを止める方法がないのです。

このような国連の安全保障に関する仕組みはおかしいのです。第二次世界大戦の戦勝国のうち大国 5 ヶ国が自らの立場を優先させた結果、できたものだということは一見して分かります。戦争をしないためにできた国連が、大国の立場優先となっているところに、既に戦争の芽が見えていると言わなければなりません。戦後 4 分の 3 世紀が過ぎた現在、戦勝国も敗戦国もない筈です。

日本国憲法と国連憲章の最大の相違点は、日本国憲法は例外を認めない「完全戦争放棄」であるのに対し、国連憲章は例外的に武力行使を認めている点にあります。人命と人権を究極の価値とする考え方に立てば、戦争は完全に放棄しなければならない筈です。国連は、世界から戦争を無くそうという理想を実現するためにできたのに、戦争がなくならないのは、理想を現実にするための具体的方策に問題があるからです。その方策を是正しなければならないのです。

『国連憲章と日本国憲法』に関しては、これまで何度か駄弁本『戦争の放棄』 シリーズで述べました。その第6巻の国連に関する部分を別冊にして同封しま す。お目を通してもらえれば参考になると思います。

## 裁判にならない方法を考えたい

#### - 喧嘩犬から氏神様へ





遺産相続問題で裁判になってしまうと、紛争がエスカレートし、裁判で決着が付いても親子関係、兄弟関係など、この世で最も大切な人間関係が断絶してしまうことが普通です。

弁護士は、相続問題の裁判の一方当事者の代理人となって法廷で闘うことが多く「喧嘩 犬」などと言われることがあります。

50年を超えて地方弁護士をさせてもらい、喧嘩犬のままでは終わりたくないという思いが強くなっています。

できれば揉め事となりそうだという心配が生まれたら、裁判などになる前に仲に入って、 話合いで丸く収めてやりたいのです。「仲裁は時の氏神」と言われていますが、氏神になり たいのです。親子、兄弟間で、血で血を洗う争いにならないようにしてやりたいのです。

相続問題はどこにでも、誰にでも発生します。揉め事になりそうだという気配を感じたら直くに連絡を下さい。氏神となって裁判になる前に、相続に関係する人皆さんが幸せに思えるような解決方法を見付け出して差し上げますのでご一報下さい。

50 年以上も地方の皆様に支えられ、ここまでやれた身としては氏神様となって恩を返したいのです。多くの相続事件に関与してきて、法律より気持ちが大事であることを良く良く知っています。その経験則で皆が幸せを感じられる解決をしてやりたいのです。

殊にも、この事務所便りをお読み下さっている皆様と、その皆様の身の周囲の人には、骨肉相食む相続争いはさせたくはありません。揉め事になりそうだという気配を、臭いを感じたら一刻も早くお声を掛けて下さい。

私が氏神となって、相続に関係する皆さんの考え方を聴き取り、それぞれの考え方を摺り合わせ、円満解決に導きます。早ければ早いほどそれが可能となります。喧嘩犬もやりますが、氏神様の役割にそやりたい役割です。

戦争に勝つより、戦争をしない方がいいのです。裁判に勝つより、裁判をしないで決めた方がいのです。戦争をしたら多くの死人が出ます。死んだ人は戻りません。裁判をしたら遺恨は残ります。いつまでも忘れられない恨みが残ります。

この世で最も大切な親子、兄弟間に遺恨など残したくないのです。戦争と相続争いはさせたくありません。それがいなべんの哲学』です。